

主催：公益財団法人大倉精神文化研究所 共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

大倉山講演会

波濤を越えた近代日本人たち

令和7年3月22日(土)

要事前申込
(詳細裏面)

幕末維新期の「近代」「伝統」再考 —西周と津田真道を手がかりとして—

西周^{にしあまね}と津田真道^{つだまみち}は、文久2年(1862)幕府が派遣した初の留学生として、オランダのライデン大学でフィッセルリング教授から講義を受け、帰国後は開成所(東京大学の前身)で教授職をつとめました。西周は「哲学」をはじめ多くの学術用語を翻訳し、「近代哲学の父」とも呼ばれます。津田真道は西洋法学を紹介した『泰西国法論^{たいせいこくほうろん}』を刊行しました。しかしながら、福澤諭吉^{ふくざわゆきち}と比べると、同じ明六社のメンバーでありながら、さほど注目されていません。彼らが幕臣で、維新後に新政府に出仕して軍事関連の仕事にも携わっていたことと、「啓蒙」「軍事」について、これまで日本人が抱いてきた考え方が、認識バイアスになっていると考えられます。

本講演では、彼らの帰国後から慶応4年(1868)までの時期に焦点を当て、幕藩体制の崩壊という事態に対していかに向き合ったのかを検討することで、幕末維新期の「近代」「伝統」を再考する手がかりとしたいと思います。

◇時間：午後2時～3時30分(開場は午後1時45分)

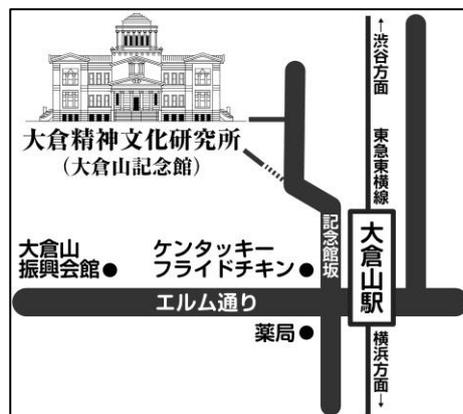
◇会場：横浜市大倉山記念館 ホール

横浜市港北区大倉山二丁目10-1 大倉山公園内
(東急東横線大倉山駅下車徒歩7分)

◇講師：谷口 眞子^{たにぐち しんこ}(早稲田大学教授)

◇定員：80名(入場無料、要申込・先着順)

◇申込方法：詳細は裏面をご覧ください



次回予告 4月12日(土) 大倉山講演会 大倉家三代一孫兵衛・文二・邦彦一の異文化体験
講師：星原大輔(大倉精神文化研究所研究部長)